

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

				コード		631-01-01		
事務事業名		文化財発掘調査事業		事務の種類		自治事務（義務的なもの）		
				連絡先		内線4481		
担当部署名		教育委員会生涯学習室 文化財保護課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		3		歴史・文化	項	5	社会教育費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり	目	4	文化財保存事業費
対象（誰を・何を）		市内に存在する文化財（埋蔵文化財）						
目的（どうしたいか）		埋蔵文化財を保護し、さらにはその活用を図り、市民をはじめ多くの人たちに本市の個性の一つである豊かな歴史性を周知する。また、文化財を将来へ継承していく。						
手段（事業内容）		開発工事等との調整を図り、文化財の保護を行う。必要に応じて、埋蔵文化財の発掘調査を実施する。						

事業費

単位：千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算
事業費		4,334	6,588
人件費		18,791	15,411
総事業費		23,125	21,999
うち市負担分		21,817	19,565

28年度決算主な内訳
【事業費】
・文化財調査委託料 1,655千円
・機器借上料 1,271千円
・写真撮影委託料 566千円
・調査指導謝礼 5千円
・管内旅費 35千円
・需用費、原材料費 675千円
・役務費 127千円
【特定財源】
・国庫補助金 1,308千円

活動指標

指標名	平成28年度発掘届出・試掘調査依頼書件数（件）		
指標の説明	発掘届出と試掘調査依頼書の提出件数合計。「平成29年度目標」は過去3ヶ年（平成26～28年度）の平均値を記載。		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		287	301

成果指標

指標名	平成28年度発掘・立会調査件数（件）		
指標の説明	発掘・立会・試掘調査の件数合計。「平成29年度目標」は、過去3ヶ年の平均値を記載。		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		126	130

参考数値
平成28年度 ・発掘届出 236件 （うち、発掘34、立会82、慎重工事120） ・試掘調査依頼書 51件 ・発掘調査 36件 ・立会調査 59件 ・試掘調査 31件

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
市内の土木工事等で影響の受ける埋蔵文化財について、その記録を残し、将来に継承するために発掘調査を実施している。埋蔵文化財は、その性質上、一度損傷を受けると二度と元には戻すことができない。工事等で影響を受ける埋蔵文化財については、関係者と事前に協議を重ね極力現状で保全するようにしているが、どうしても支障がある範囲については必要最小限の発掘調査を行っている。発掘調査後は、出土遺物の整理、検出遺構の精査検討、写真撮影、図面浄書（トレース）等といった作業を経て、その成果を周知・公表するために発掘調査報告書を作成している。					

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

					コード		631-01-02			
事務事業名			石川流域前期古墳発掘事業			事務の種類		自治事務（義務的なもの）		
						連絡先		内線4481		
担当部署名			教育委員会生涯学習室 文化財保護課			予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6	歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち			款	10	教育費	
	施策		3	歴史・文化			項	5	社会教育費	
	施策の方向		1	歴史資産を活かしたまちづくり			目	4	文化財保存事業費	
対象（誰を・何を）			主として石川流域に分布する前期古墳							
目的（どうしたいか）			石川流域の前期古墳は、世界文化遺産登録を目指している、古市古墳群の形成を考える上で非常に重要な古墳である。これらの前期古墳の内容を把握して、将来的には国指定史跡を目指す。							
手段（事業内容）			各古墳の測量や発掘調査を実施して、古墳の形状や規模、築造時期を把握して、文化庁や大阪府をはじめ関係諸機関と調整を図り、国指定史跡を目指す。							

事業費

単位：千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算	28年度決算主な内訳
事業費		3,553	1,494	
人件費		4,208	3,491	
総事業費		7,761	4,985	
うち市負担分		6,827	4,164	
				【事業費】
				・文化財調査委託料 2,218千円
				・測量委託料 842千円
				・機器借上料 171千円
				・写真撮影委託料 169千円
				・印刷製本費 104千円
				・調査指導、交通費 49千円
				【特定財源】
				・国庫補助金 934千円

活動指標

指標名	石川流域の前期古墳の確認調査（件）		
指標の説明	事業計画に基づいて、確認調査等を実施する。平成28年度は壺井丸山古墳、平成29年度は通法寺裏山古墳を対象。		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		1	1

成果指標

指標名	石川流域の前期古墳の調査成果の公表（件）		
指標の説明	平成28年度は壺井丸山古墳他のレーザ測量調査、平成29年度には壺井丸山古墳の範囲確認調査の成果を公表予定。		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		1	1

参考数値
平成27年度 壺井丸山・通法寺裏山古墳レーザ測量調査実施。
平成28年度 壺井丸山古墳範囲確認調査実施。レーザ測量調査公表。
平成29年度 通法寺裏山古墳確認調査。壺井丸山古墳範囲確認調査公表。

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担はない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
世界文化遺産の登録を目指している古市古墳群の成立以前に当たる時期に、石川流域に数多くの前期古墳が築かれている。これらの中には保存状態の良い古墳も存在し、歴史的にも重要なものと認識されている。こういった石川流域の前期古墳を保護し後世に継承していくために、国指定史跡を目指して計画的に各古墳の調査を行っている。古市古墳群のみならず、その前段階の古墳についても保全を図り、将来的には本市の歴史的遺産として整備活用を行ってきたい。					

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

					コード	631-01-03		
事務事業名		文化財指定・助成事業		事務の種類		自治事務（義務的なもの）		
				連絡先		内線4481		
担当部署名		教育委員会生涯学習室 文化財保護課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		3		歴史・文化	項	5	社会教育費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり	目	4	文化財保存事業費
対象（誰を・何を）		市内に存在する文化財（埋蔵文化財）						
目的（どうしたいか）		適切に保存を行い、将来に継承していく。また、指定文化財等の公開や活用を積極的に推進する。						
手段（事業内容）		市内に存する文化財の価値を明確にして、文化財保護法、大阪府文化財保護条例、羽曳野市文化財保護条例に則って、文化財指定等を行う。また、指定文化財等の所有者に対して、適切な保存や公開を行う一助として助成金の交付を行う。						

事業費

単位：千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算	28年度決算主な内訳 【事業費】 ・文化財保存事業費助成金 1,722千円 ・文化財保護審委会 264千円 ・登録文化財所有者分担金 2千円
事業費		1,988	5,943	
人件費		4,282	5,184	
総事業費		6,270	11,127	
うち市負担分		6,270	11,127	

活動指標

指標名	文化財保護審議会の開催回数（回）		
指標の説明	指定文化財について審議する専門委員会の開催回数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		2	2

成果指標

指標名	市指定文化財件数（件）		
指標の説明	羽曳野市文化財保護条例に基づく文化財指定の件数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		1	1

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 本市には歴史的文化遺産が数多く残されているが、これらの保護を図った上で将来に継承していくことが急務である。 そのため、本市文化財保護条例に基づいて、市による文化財指定を行っている。また、指定文化財等の所有者に対しては、当該文化財の保護やその公開にも協力頂いていることから、一定の助成金を交付している。					

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

				コード		631-01-04		
事務事業名		史跡等管理・保存整備事業		事務の種類		自治事務（義務的なもの）		
				連絡先		内線4481		
担当部署名		教育委員会生涯学習室 文化財保護課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		3		歴史・文化	項	5	社会教育費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり	目	4	文化財保存事業費
対象（誰を・何を）		市内に存在する史跡や歴史公園等						
目的（どうしたいか）		我が国の歴史を理解する上で欠くことのできない史跡地等について、適切な状態で保存して、公開や活用を図る。また、公有化していない史跡地の公有化を推進していく。さらに、歴史的に重要な遺跡等を史跡指定を行う。						
手段（事業内容）		史跡地等の清掃・除草作業、その他史跡等の維持管理に必要な事業を行う。						

事業費

単位：千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算
事業費		6, 823	14, 895
人件費		3, 470	3, 333
総事業費		10, 293	18, 228
うち市負担分		10, 047	14, 321

28年度決算主な内訳	
【事業費】	
・ 史跡清掃委託料	5, 574千円
・ 植栽管理委託料	413千円
・ 史跡看視委託料	128千円
・ 機器借上料	32千円
・ 修繕費	182千円
・ 全史協負担金、旅費	99千円
・ 光熱水費等	395千円
【特定財源】	
・ 国庫補助金	246千円

活動指標

指標名	史跡等指定面積（㎡）		
指標の説明	国や府指定史跡、遺跡公園等の面積		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		95, 589	95, 589

成果指標

指標名	史跡公有化面積（㎡）		
指標の説明	国や府指定史跡、遺跡公園等の面積のうち公有化を行った面積		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		54, 034	54, 034

参考数値	
応神陵外濠外堤23207. 33㎡、菅田白鳥埴輪製作遺跡5215. 75㎡、墓山古墳43225. 00㎡、峯ヶ塚古墳11189. 14㎡、通法寺跡6602. 67㎡、観音塚古墳1741. 25㎡、庭鳥塚古墳2174㎡、菅田史跡公園150㎡、翠鳥園遺跡公園1874㎡、飛鳥千塚210㎡	

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担はない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
我が国の歴史を考える上で欠くことのできない重要な遺跡等は、史跡に指定されている。本市では、応神天皇陵古墳外濠外堤をはじめ、多くの史跡や遺跡公園等がある。これらを適正な状態で維持管理するために、定期的に除草や樹木剪定、清掃や看視業務を委託している。将来的には、計画的に整備や活用を行っていく必要がある。					
また、現在指定史跡以外にも、大型古墳周辺については、一定の環境整備に加え、発掘調査によって特に関係遺構が確認されれば、史跡指定を含めた保全や整備・活用方法の検討が今後必要になってくるものと思われる。					

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

				コード		631-01-05		
事務事業名		史跡古市古墳群整備基本計画策定事務事業		事務の種類		自治事務（義務的なもの）		
				連絡先		内線4481		
担当部署名		教育委員会生涯学習室 文化財保護課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		3		歴史・文化	項	5	社会教育費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり	目	4	文化財保存事業費
対象（誰を・何を）		史跡古市古墳群						
目的（どうしたいか）		巨大古墳が集中し、我が国の古墳群を代表する古市古墳群はその歴史的価値から国史跡に指定されている。また、世界文化遺産登録を目指して、今後の保存整備や公開活用のあり方を検討していく。						
手段（事業内容）		古市古墳群が位置する藤井寺市と連携を図り、整備基本計画策定に関する専門委員会での意見聴取や検討作業を行う。						

事業費

単位：千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算	28年度決算主な内訳 【事業費】 ・ 史跡古市古墳群整備基本計画策定業務負担金 1,031千円 ・ 委員報酬、費用弁償 162千円
事業費		1,193	1,656	
人件費		3,174	2,222	
総事業費		4,367	3,878	
うち市負担分		4,367	3,878	

活動指標

指標名	羽曳野市史跡古市古墳群整備検討委員会の審議回数（回）		
指標の説明	基本計画策定にかかる羽曳野市史跡古市古墳群整備検討委員会の開催回数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		3	4

成果指標

指標名			
指標の説明	平成29年度での基本計画策定をもって成果とする。		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担はない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
我が国屈指の大古墳群である古市古墳群は、世界的にも稀有な人類史的遺産であり、平成29年7月には世界文化遺産の国内推薦に選ばれた。今後、古墳群として万全の保護を図り、また整備や活用方法を検討していく必要がある。世界文化遺産登録を目指す古市古墳群の保全や整備・活用にかかる基本計画は、本市のまちづくりにとって大きな指針になるものと思われる。					

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

				コード		631-01-06		
事務事業名		文化財保管施設管理事務事業		事務の種類		自治事務（義務的なもの）		
				連絡先		内線4481		
担当部署名		教育委員会生涯学習室 文化財保護課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		3		歴史・文化	項	5	社会教育費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり	目	4	文化財保存事業費
対象（誰を・何を）		市内に存在する文化財（埋蔵文化財）整理作業及びその施設管理						
目的（どうしたいか）		埋蔵文化財の整理作業、また調査内容の検討や研究、出土資料の実測や図面作成、さらには資料やその記録図面や写真の保管や管理等を行う。また、その施設を適正な状態で管理する。						
手段（事業内容）		発掘調査で出土した遺物の洗浄、分類、注記、接合や復元、実測等の記録作成、図面や写真の整理や保管作業やその施設の適正管理						

事業費

単位：千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算	28年度決算主な内訳 【事業費】 ・光熱費等 719千円 ・機械警備委託料 60千円 ・試料採取分析委託料 140千円 ・修繕、維持管理費 266千円
事業費		1,185	1,060	
人件費		664	741	
総事業費		1,849	1,801	
うち市負担分		1,849	1,801	

活動指標

指標名	修繕必要箇所数（箇所）		
指標の説明	文化財資料の整理作業施設や保管施設における修繕必要箇所数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		1	3

成果指標

指標名	修繕終了箇所数（箇所）		
指標の説明	文化財資料の整理作業施設や保管施設における修繕済箇所数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		1	3

参考数値
平成28年度 文化財保管施設のフェンス修繕実施。

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担はない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化 ☒ 現状維持 ☐ 改善して継続 ☐ 縮小・統合 ☐ 完了 ☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 市内の発掘調査等で出土した遺物などを市民をはじめ広く公開していくために、整理作業を能率的かつ円滑にしている必要がある。 現在の整理作業施設は、経年による劣化をはじめ耐震にも課題があるので、施設の在り方を総合的に検討していく必要がある。

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

				コード	631-02-01		
事務事業名		文化財等の周知啓発事業		事務の種類		自治事務（義務的なもの）	
担当部署名		教育委員会生涯学習室 文化財保護課		連絡先		内線4481	
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	3	歴史・文化		款	10	教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		項	5	社会教育費
					目	4	文化財保存事業費
対象（誰を・何を）		学校の児童や生徒、文化財や歴史遺産の支援者・愛好者					
目的（どうしたいか）		本市に存する豊かな文化財の価値や面白さについて興味や関心を持って頂き、郷土愛を育み、さらに歴史を通して想像力や感性を養う。					
手段（事業内容）		本市に存する豊かな文化財の価値や面白さについて、児童・生徒や教員を対象として出前授業や研修等を実施する。また、生涯学習として、文化財や歴史遺産の支援者・愛好者にも、現地見学や講演会等の機会を捉えて、本市の歴史的個性を体感して頂く。					

事業費

単位：千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算	28年度決算主な内訳
事業費		111	106	【事業費】 ・歴史街道推進協議会費 100千円 ・外部講師謝礼 5千円 ・管内旅費 4千円 ・消耗品費 2千円
人件費		1,513	3,444	
総事業費		1,624	3,550	
うち市負担分		1,624	3,550	

活動指標

指標名	職員派遣等協力依頼件数（件）		
指標の説明	講師派遣、博物館学実習や学校授業等の協力依頼件数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		24	25

成果指標

指標名	対象人数（人）		
指標の説明	講座や授業を受講した人数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		1,916	2,000

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担はない。	

総合評価

☐ 拡充・重点化	☒ 現状維持	☐ 改善して継続	☐ 縮小・統合	☐ 完了	☐ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容					
本市の豊かな歴史的特徴を、学校教育や生涯学習などあらゆる機会を通して十分に伝えていきたい。人類最古の時代である旧石器時代から現代に至るまで、各時代を代表する遺跡や遺物といった歴史的遺産が存在している。他市等にはない本市のユニークな特徴を周知して、ひとづくりやまちづくりに寄与していきたい。					

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

				コード		631-02-02		
事務事業名		文化財の展示・公開事業		事務の種類		自治事務（義務的なもの）		
				連絡先		内線4481		
担当部署名		教育委員会生涯学習室 文化財保護課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		3		歴史・文化	項	5	社会教育費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり	目	4	文化財保存事業費
対象（誰を・何を）		出土遺物や市内に点在する文化財、また文化財見学来訪者						
目的（どうしたいか）		本市の豊かな歴史的個性を体感してもらうために、本市内での発掘調査によって出土した遺物を広く展示・公開し、その充実を図る。また、市内に点在する文化財（遺跡や古墳、神社仏閣等）の理解や関心を深める。						
手段（事業内容）		文化財展示の施設において、出土遺物の展示等を行う専用ケースの設置、文化財の解説案内板の設置整備を進める。						

事業費

単位：千円		27年度決算	28年度決算	29年度当初予算	28年度決算主な内訳	
事業費			2,353	1,938	【事業費】	
人件費			2,252	3,074	・印刷製本費 157千円	
総事業費			4,605	5,012	・修繕費 195千円	
					・原材料費 455千円	
うち市負担分			3,671	4,417	・備品購入費 1,516千円	
					・管外旅費 30千円	
					【特定財源】	
					・国庫補助金 934千円	

活動指標

指標名	展示ケース設置や説明板の整備箇所数（台・箇所）		
指標の説明	出土遺物の展示保管、遺跡や古墳の説明板の設置整備箇所数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		14	15

成果指標

指標名	文化財展示室来訪者数（人）		
指標の説明	文化財展示室の来訪者人数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		1,426	1,500

参考数値
平成28年度 展示ケース1台、金属製品保管庫1台、遺跡案内板（史跡観音塚古墳・重要文化財西浦銅鐸、竹内街道）12箇所 平成29年度 展示ケース1台、遺跡案内板（小口山古墳・野中寺旧伽藍跡・長尾街道・東高野街道）15箇所

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担はない。	

総合評価

☒ 拡充・重点化 ☒ 現状維持 ☒ 改善して継続 ☒ 縮小・統合 ☒ 完了 ☒ 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 本市の特徴の一つである歴史的個性をより広く周知していく必要がある。平成29年7月には古市古墳群が百舌鳥古墳群とともに世界文化遺産の国内推薦となり、今後は本市の歴史的遺産への訪問者がますます増加するものと思われる。 文化財の展示や公開にかかるハード面の整備を推進し、同時に訪問者への適切な解説などソフト面の充実も図ってきたい。